

# 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏名	榊原香鈴美

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
新潟県中頭城群妙高高原町杉ノ沢村笹ヶ峰
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 9 月 29 日 ~ 平成 28 年 10 月 2 日 (4 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
静岡大学、杉山茂 (京都大学笹ヶ峰ヒュッテ管理者)
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
京都大学笹ヶ峰ヒュッテ周辺の山間地域にみられる植生の理解、ならびに登山技術の訓練のため、9 月 29 日から 10 月 2 日の 4 日間、杉山先生をはじめとする山岳部 OB によって本実習は行われた。
<日程> 9 月 29 日 (1 日目) 京大ヒュッテ周辺散策、植生観察 9 月 30 日 (2 日目) 涸沢のぼり、野生サル観察、ビバーク講習、ロープワーク、登山ルート確認 10 月 1 日 (3 日目) 火打山登山 10 月 2 日 (4 日目) 積雪期の登山装備の説明
直前の天気予報から天候不良が心配されたが、時折弱い雨が降ったものの予定通り実習内容はすべて行われた。標高 1,330M にある京大ヒュッテ笹ヶ峰は、普段は山岳部員の登山訓練や山岳スキー練習の場として利用されている。本実習期間に降雪や積雪はなく、ヒュッテ周辺にはミズナラ、シラカバ、ダケカンバを中心に、ヤマブドウ、ササ、ホコリダケなどの植物がみられた。近年、一般イベントとして行われているトレイルランニングによって地面の踏み固めやシバ枯れがあり、また豪雨による川の氾濫から土砂の流出がみられ、自然要因と人工要因の両面での植物への影響をみる事ができた。植物の分布の変化は、直接観察できなかった間に起きた自然現象を推察する上で大きなヒントになると感じた。例えば、先ほどの土砂流出による川辺の植物の減少による雨量の推定や、樹木の枝が折れている高さから冬の積雪量の予想などである。これは逆に自然現象による植生の変化を予想する力を養うことにもなった。フィールドワークにおいて、自身が滞在できない期間の環境情報を、限られた調査期間で収集する能力は非常に重要であり、今回の実習でどのような点に注目して植生観察をおこなうべきか学ぶ事ができた。2 日目の涸沢のぼりでは滑る岩場で安全に登るための体重移動の方法を実践した。自身の身体能力の把握と体調管理の必要性を感じ、それらを踏まえて火打山登山に臨む事ができた。地図を用いた事前のルートチェックによる休憩ポイントや難所の確認中に、どのように体力を使っていくかなどを考えた。3 日目、標高 2,470M の火打山の実際の登頂は片道 6 時間を超えたが、準備によって計画的な体力配分ができたと感じた。これらの技術は今後別の新たなフィールドで調査をする際に、どの程度準備期間が必要か、現地に行くまでにできる身体メンテナンスはなにかなど、効率よく安全なフィールドワークを遂行するために役立つだろう。ロープワークやビバークの講習、積雪期の登山装備の紹介も、同様に普段接しないフィールドの新たな知識として蓄積された。

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



写真 1. 火打山山頂での集合写真



写真 2. 京大ヒュッテ笹ヶ峰前での集合写真



写真 3. 積雪期に利用するスキーマの説明



写真 4. ヒュッテ笹ヶ峰の周辺

(写真：滝澤玲子さんより)

### 6. その他 (特記事項など)

滝澤玲子さんをはじめ、実習の準備をしてくださりました PWS 支援室のみなさま、実習担当の先生方には貴重な体験をさせていただいたこと、心より感謝申し上げます。